

北口番外篇
P横丁的日乗
ペンギン堂雑貨店咆哮

気忙しい師走に入っ
て、大塚もバタバタして
る今日この頃。「いよいよ
よ足場が掛かりました
ね、ひょうたん島」と僕
の顔を見るなり話しかけ
る鐘ヶ淵さん、折戸通り
からちよいと脇に逸れた
小道の一角で、早朝から
営業する謎めいたバーを
営む人だ。「いいんです
かお店?」、「大丈夫で
すよ、ユキちゃんが店番
してるからね」。パーク
のお客だったユキちゃん
は、いつの間にかカウン
ターの内側の人になっ
た。バーと言ってもコー

「鐘ヶ淵さん、最近北
口商店街は羊が推しみた
いで、昔からあった鰻の
店は羊じゃぶじゃぶ、こ
ないだまで焼き鳥屋だっ
たことも羊で」、「あと
は焼肉屋に牛丼屋にとん
こつラーメン。牛豚羊ス
トリートですな」、「鶏
の立場がないんです」、
「大塚北口濃厚民族系商
店街です、フフフ」。
あつさりすつきりさつ
ぱりが少数派というのも
残念だけど、まあパン屋
も和菓子屋も増えない街
だからな。「辛うじて孤
軍奮闘するのがお蕎麦屋
さん」、「大塚駅の自由
通路にも出来たしね」、
「JR系の駅そばで
す」、「他店と比べて中
高年のお客が多いっての
も面白いですな」、「中
年夫婦の食事風景をよく
見ますよ」。食周りを見
渡せば牛豚羊、さっぱり
系の頼みの綱は、意外と
多い蕎麦屋かも。

本所甘いしょっぱい攻撃

寒くなるとね、もんじゃ
の季節かなあって思います。
年季の入った鉄板で手を暖め
ながらね、コテになすりつ
けた溶岩の如く熱いやつ、ど
ろどろとしたあの生涯固まら
ないお好み焼きみたいな奴を
頬張ると、口ん中が一気に熱
せられ、ソースとうどん粉
と微塵切りキャベツの溶解物
の旨味が押し寄せてくる訳
です。このままじゃ大火傷
じゃあ〜という時に、ビール
と言う名の特別消防隊をさ
さっと流し込む。黄金色の麦
酒がきめ細かい泡と共に、口

の中を穏やかに取りなしてく
れるという寸法。
開け放たれた入り口(でき
うれば木製建具のガラス戸が素
晴らしい)を最初は寒いじゃな
いかって思うけど、数分も経
てば、ちよつとした木枯らしも
涼風で、明太もんじゃに餅入れ
るのか、そばもんじゃにチーズ
入れるのか、カレーもんじゃは
2つ目か3つ目、ちと飽き始め
た時の変化球に頼みたいとか、
お品書きとにらめっこしつつ、
時にはおせんべ作ったりしつ
つ、食べ遊ぶ醍醐味に浸る。
そうなんです、もんじゃ
は遊び食いの極み。子供の頃
言われませんでしたか?遊
びながら食べるんじゃないっ
て。行儀悪いからダメって叱
られたりね。叱られないのが
もんじゃなんです。鉄板の
隅っこで自分専用の陣地を作
ったりしてね。

本所の住宅街の小さなもん
じゃ屋を教えてくれたのは、
北割下水の師匠。子供の頃か
ら来ていたと。無駄に海鮮な
んか入れて料金のかさ増しを
しない。飲み物は自分で出し
て会計時に自己申告。ビール
が大瓶という本寸法が嬉しい
じゃないですか!
×は勿論かき氷。なにせ元
氷屋さんですからね。氷の美
味しい温度を知ってるし、自
家製すいを作って先にかける
から一層美味しい。これぞ本
所名物甘いしょっぱい攻撃の
真骨頂。おばあちゃんひとり
で大丈夫?はい、心配しない
で下さい。忙しい時は息子さ
んが手伝いに来ますんで。



版元：東京ペンギン堂本舗
豊島区北大塚2-26-1-1F



安心設計

コチョウスレドモ
ウソハツカナイ



隅っこで自分専用の陣地を作
ったりしてね。



あなたとわたしの
演芸の友
東京がわら版
毎月二十八日を待て

毎月10日ごろ出ますよ
本の雑誌

ガラスのことなら
ほぼお任せ
高野硝子店

意外と沢山ペンギンいます
雑貨店

編集後記のようなもの
嬉しいなあ、広告欄
が埋まりましたよ。ご
協力ありがとうございました。ご
協力ありがとうございます。
まだまだ募集し
ます。もう一段くらい
作ってもいいし、何な
ら別ページにもこそつ
と入れますよ。
久しぶりに銀の輔と
京都に行ってきたんで
すが、まあ恐るべき大
混雑。東京がこんなで
すから、世界の京都な
ら推して知るべし。い
くら混んでも楽しい町
なの困りものです。
大感謝配布協力
池之端・古書ぼうろ
う、雑司が谷・旅猫雑
貨店、法善寺横丁・洋
酒の店 路、目黒・ふ
げん社、浅草・珈琲ア
ロマ、平井・平井の本
棚、神宮前・シーモア
ガラス、大塚・山下書
店。まだ募集中!



今日も銀座に行かなくちゃ…

名物の忘れ形見



スクラッチ&ビルドは世の常で、東京ならなおのこと、寿命が尽きていようといまいと、どんどん壊してどんどん建てます。それはそれで諦めているけど、街のランドマークみたいな建物が消えると、やっぱり少し寂しいような切ないような。銀座的に言くと、最初にむむっと思ったのは伊東屋かな。あの階段三昧なフロア移動、楽

しかったですよ。同じ階段趣味でもソニービルはまたモダンで、地下のドレミファ階段と共々意味なく行き来しました。今となつては松坂屋のザ・デパート感もようございました。そして三愛です。四丁目交差点じゃあ一番小さいのに、あの茶筒ビルの存在感は、他の3棟とは異次元のスタンスでした。歌舞伎座と新橋演舞場については、もう何も言いません。言い出すと止まらなくなるに決まっていますもん。八丁目のどん詰まり、入り組んだ道路の向こうは汐留な一角にあった中銀カプセルタワービルの異彩振りには、よく西銀座通り隅っこの中部放送ビルと並び称されたけど、あのレトロ近未来感の群を抜いていましたよね。解体前はちょっとした盛り上がりを見せ、個々のカプセルは世界中に拡散されたみたいだけど、まあ



バラけちゃったら正直意味がない。そういう意図で黒川先生は拵えたんでしようけどね、あの不規則な集合体こそ大いなる意味があったように思います。騒がしいプチブームは去り、もういいだろうと出掛けてみたら、既に白い囲いに覆われた更地でした。消えてみると、もうここにあったことすら確信できない見事な引き際。変わらないうのは真ん前の地下駐車場入りぐりばかり……と思つたら、ありませんでしたよ、街路樹の隣の不思議な傾斜角を備えたコンクリーランターが。カプセルタワーとセットだったかどうかは定かじゃないけど、どこか異次元の忘れ物みたいな気がしています。



銀の輔 京都見物すこし



鴨川も桂川も良いけど、白川の流れに心寄せる者です。その鴨川の合流地点からずんずん廻り、異橋もさつさと越えて河原町通りも越え、川筋が思い切り左に曲がってからがお楽しみ。そつですなえ、知恩院がポイントじゃないかと思えます。最初は華頂道と白川筋が交差する先の古門前橋の上に立つんです。真つ直ぐに続く穏やかに流れる川がきらきら輝きます。護岸の遊歩道では、大きな柳の地面に付きそつに伸びる葉が、さわさわと風に揺らぎます。橋の近くには川面まで降りられる小さな広場があつて、近所のおじさんが鴨に餌をあげてい

ます。きつと毎日のように来てるんでしょね。鴨たちも慣れたもので、おじさんの手から餌を貰つてる。界限にはこれといったお店がないので、観光客が押し寄せることもなく、近所の学校の学生や生徒がいるくらい、いたつてのんびりムード漂います。そんな緩い雰囲気のままに一本橋。欄干もフェンスも無くて、無防備この上ない、橋というよりは向こう岸への渡り廊下みたいな感じですよ。銀の輔が立ってる橋はまだ良い方で、この半分以下の幅しかない一本橋もあつて、すれ違ふなんて無理。日頃通り慣れたる近所さんはすいすい渡るけど、こちらはおつかなびつくり。自転車でも渡る人もいるのかなあ？ 子供たちは目をつぶつて渡るなんて空恐ろしい通過儀礼めいたものがあつたりしてね。

川筋から斜めに伸びる古川町商店街というアーケードがあるんです。京都はアーケード商店街が少ない。余所者の僕が知ってるのは三条商店街と出町柳の舁方商店街くらい。でもここが一番渋くて可愛い。新しい店も増えたけど、脇道に逸れると年季の入った住宅がお互い寄り添うように並んでいます。そこに緑色の京都新聞の宅配袋や毎日牛乳のプラ箱が下がってるだけで頬が緩む、単純な東京者です。ゆつたり白川も三条通りを潜ると、急に川幅が狭くなりま



す。一旦川を離れた白川筋が再び川沿いに戻ると、これまでとは一味違う散歩道に模様替え。天突く大鳥居まであと少し。